

議 事 録

- 1 会議名 平成29年度第1回さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 日 時 平成29年5月16日(火) 9時30分～11時30分
- 3 場 所 さぬき市役所 4階 第2委員会室
- 4 出席者 (委員)
尾崎委員 大塚委員 多田委員 岩村委員 池田委員 岩田委員 鈴木委員
(市)
総務部政策課 谷課長 大生課長補佐 津村副主幹
- 5 傍 聴 0名
- 6 会議次第
- 1 開会
 - 2 座長挨拶
 - 3 議事
 - (1) まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成28年11月改訂版)について
 - (2) 今年度の検証方法及びスケジュールについて
 - (3) まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況調査について
 - 4 事務連絡
 - 5 閉会
- 7 配布資料 ○平成29年度さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証(改訂)スケジュール【案】
○さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況調査票
○さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況調査票(基本目標)
○さぬき市人口動態等一覧(出典:香川県人口移動調査報告書)
○さぬき市市民憲章

8 議事の経過及び発言要旨

< 開 会 > (9 : 3 0)	
座長	<p><座長挨拶></p> <p>ただ今から、平成29年度第1回さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催します。</p> <p>後ほど事務局から説明しますが、9月に委員会としての提言書を提出する予定であり、それまでに数回、会議を開き、皆様から意見をいただきたいと考えていますので、よろしくをお願いします。</p> <p>政策課の課長、担当者が交代しましたので、挨拶をお願いします。</p>
政策課長	<p><事務局挨拶></p>
座長	<p>議題1、「まち・ひと・しごと創生総合戦略について」ですが、昨年11月に改訂版が出され、事前に皆さんにお渡ししていますが、確認も含め、変更点等を事務局から説明をお願いします。</p>

事務局	<説明>
座長	何か質問はありますか。
	<特になし>
座長	続いて議題2、「今年度の検証方法及びスケジュールについて」、事務局は説明をお願いします。
事務局	<説明>
座長	今の説明を踏まえ、再度、資料を整理します。 参考資料については、さぬき市は、2030年に目標人口32,000人、との目標を立てているものの、現状は、とても厳しいという内容。 資料3は、基本目標の目標値の現状を確かめるものであり、単位が「点」の指標は、総合計画策定時の市民アンケートから引用するため、年末以降になる、ということ。 資料2のヒアリングシートについては、KPIの進捗状況が現状どうであるかということを確認するものであり、委員の皆さんの意見も聞き、様式を固めていきたいということでした。 今日は、総合戦略改訂版を初期値とし、厳しい人口動態を踏まえ、資料2を使用したヒアリングの実施の賛否、ヒアリングを行うならこんな質問を加えてはどうかなど、皆さんの意見をいただきたいと思います。
委員	このままいくと必ず人口は減少していくでしょう。どうにか転入者を増やし、転出者を抑える施策を考えなくてははいけません。参考資料を見ると顕著に結果が出ています。女性の転出が多い要因は何であるかを把握できていますか。
事務局	様々な要因があると思うので、どこでどのように質問するかも含めて正確な要因分析は難しいと感じていますが、世帯主の仕事の都合で転出される人が目立っていると思われま。転出時に理由を聞くアンケートは現在、行っていません。
委員	銀行は東讃地区に7支店あり、志度支店が一番高松市寄りです。女性は、もともと入行が白鳥や引田や津田でも、結婚したら志度支店に集まってきます。なぜかという、結婚後生活するのは高松であり、通勤上一番近い志度支店で留め置いているのです。本来なら高松地区に移してあげたいのですが、人員のやり繰り上、そうなっています。志度支店が困っているのは、子どもが生まれると時短の労働となること。結婚しても勤められる仕組み作りが必要だと思えます。子育て支援や待機児童等、高松市と比べてどうですか。
事務局	待機児童はいないと聞いています。 昨年度、若手職員が、さぬき市の子育て施策を他市と比較研究したのですが、ほぼ横並びです。イメージの問題があるようです。例えば、高松に住む一部のお母さん方から、保育所・幼稚園・小学校の先生は、どんな方がいらっしゃるのかを教えてください。学校が魅力的であり、園の雰囲気やPRしてくれると注目する、という意見もいただいています。
委員	さぬき市で住む方は、高松市内より安く、さぬき市で家を建てた方などではないでしょうか。コンパクトシティでないと、うまく人口を増やせない。移住促進しながら

	<p>転出も食い止めるような子育て支援に関する特徴ある施策が必要だと思います。</p>
委員	<p>若いお母さん方が、さぬき市は子育てするのに環境がいいと思える魅力的なものを発信していく。さぬき市にしかない里山や天体望遠鏡博物館、上がり三か寺などを広め、県内だけでなく、県外からの移住者を増やすことが大事だと思います。</p>
委員	<p>同世代でさぬき市に住んでいる人は少なく、ほとんどの方が、職場は高松にあります。そのため、結婚したら高松に移住するのではないのでしょうか。(若い女性の転出理由としては、) さぬき市には産婦人科が少なく、不便を感じることに、働ける職場が少ないことも考えられると思います。</p>
委員	<p>合併当時は人口6万人という目標だったと思いますが、現実には、毎年度減少し続けています。高松市以外の市町は、どこもさぬき市と同じ状態ではないかと思っています。自然減もありますが、安定した雇用や住みやすい環境の不足が転出に影響していると考えています。さぬき市も住みやすいまちですが、魅力が浸透していないのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>人口減少も厳しい問題ですが、農家の離農も進んでいます。29年度までは国から補助金が出ますが、30年度からは全て打ち切りとなります。高齢化が進み、機械が壊れると農業を廃業するという方が多い。廃業後の田んぼの受け手がいないことが、問題となっています。都会から帰って農業をしている方が「交通の便や買い物、人の気遣いも必要ない都会の方が住みやすい。」とおっしゃった。人口流出の話を知るとやはりそうなのかなと思ってしまいます。</p>
委員	<p>雇用が確保されれば移住が促進されるのは理解できますが、とんでもなく人を増やすと、通勤ラッシュや市民病院の病床などは対応できるのでしょうか。人口を増やす、地域を豊かにするという目標でいろいろな施策をあげていますが、他市と変わらず、特徴があるとは言えません。何人まで行政が耐えられるかということが欠落しているのではないかと思います。移住希望者がイメージしやすいよう、5年とか10年先、さぬき市はこんなまちになりますというビジョンを掲げることが必要なのではないのでしょうか。例えば1,000人増やすとして、オールマイティな1,000人も、ある年代層にターゲットをあてた1,000人も、1,000人に変わりはない。一番近道な重点項目を具体的に掲げた方がよいのではないのでしょうか。</p> <p>都市部が発展する時、開発手順として私鉄が駅を作る。すると駅周辺に住宅地ができ、都市部まで通勤可能地域となる。志度～高松間の通勤列車を走らせてもらうなど、中核な問題点を絞り込み、予算を投下するという形がよいと思います。他にも出生率なら若い世代、高齢者に重点をあてるのであれば高齢者に合った施策、障害者であれば障害者が住みやすい優しいまちということが、キーワードとなるのかもしれない。並行しながら核になるテーマを定めると先が見えやすくなると思います。今ある施策も順調に推移しているので効果はあると思うが、反面、人口は減少しているので、本質的な答えは導き出されていません。どこかで考え方を変えてみる必要もあるのではないのでしょうか。</p>
座長	<p>人口減少の話が中心となっているところ申し訳ありませんが、ヒアリングの話に戻ります。</p> <p>資料2を使う形で行いますが、委員の意見も踏まえると、聞くときのポイントがあった方がよいと思います。政策課が作った基本目標は、働く・人が流れる・子育て出産・生きがいを持って、という4つの内容で、一応網羅はされていますが、行政的網</p>

	<p>羅で重点的ではありません。人口減少の進みが激しいので、2030年に32,000人目標は難しく、4つのテーマの上にもう1つ軸が必要だと思います。「質のよい生活を市民に」という市長の考えもあり、はっきりした軸はわかりませんが、弱いところを留めるのか、強いところをもっと強くしていくのか。施策と合えば、国からの補助金も望めると思います。ヒアリングに参加する委員の皆さんは、各施策が将来のさぬき市にどう繋がっていくのか、どんな影響があるのかなどを軸に質問してください。</p>
委員	<p>当日聞くだけでなく、前もって資料をいただきたい。</p> <p>待機児童の話であれば、高松と比べてどうである、人員は今のままで十分、待機児童100人受け入れできるなど、移住に繋がる情報を事前に調べてほしいので、聞きたい内容を前もって原課に示した方がいいと思います。</p> <p>前は、KPIの数字や根拠を質問しましたが、今回は進捗状況が示されるので、実績の内容など、聞きたい内容を前もって示してはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>資料2をまとめ、委員の皆さんに事前送付します。次の会議で、「こんな資料を原課に準備してほしい」ということをおっしゃっていただければ、ヒアリングまでに準備できると思います。</p> <p>国の人口のピークが2008年に1億2,800万人であり、国立社会保障・人口問題研究所の調査では、さぬき市の人口は2060年に23,000人、国は8,674万人との推計が出ています。人口が減少するとどんな影響が出るか考えたところ、小売店や飲食店が撤退していき、よけい寂れる。耕作放棄地が増えると、景観が悪くなり治安が悪化するなど、国交省は、主な5つの視点で悪影響を示しています。さぬき市は、人口減少をくい止めることを最重要施策の一つとし、いつまでも市民にとって、住みよい、住み続けたいまちであり続けることを目標として掲げています。アクティブシニア層に絞るとか、子育て層に絞るとか、ターゲットの優先順位の必要性も考えてはいますが、市としては、広く網をかけるというあまり好まれないかもしれませんが、安心して生涯をさぬき市で住んでいただくスタンスで取り組んでいます。</p> <p>ヒアリングでは、「原課として、この課題についての意見を聞きたい」など、有識者として新しい視点での提案もいただければと思います</p>
委員	<p>志度の通勤ラッシュは、道路拡張などで緩和できませんか。</p>
委員	<p>琴電やJRという交通機関はありますが、自宅から最寄りの駅、駅から勤務先までに距離があるから自家用車を使っています。高松市街に車で通う方は、駐車料金を払っている方も多いと思いますが、交通機関を使うより、自宅からドア to ドアで行ける利便性が勝っているのだと思います。恒久的が無理であれば、試験的に通勤快速を1本引いてみる。一般理論から言えば、通勤快速が通る駅周辺は潤う。サービスも人も減らし、交通機関も人が乗らないから便数を減らすと、負のスパイラルに入ってしまう。反転は起こりえないので、ある程度お金をかけ環境整備をしないといけません。身を結ぶかどうかはわかりません。だからこそ、身を結ぶための取組として、各課が目標値を掲げていることが生きてくると思います。ネガティブに、現状維持や微少な上昇で止めるのではなく、前のめりに動いてはどうでしょうか。家賃補助などより、1点集中で託児所を構えてみる。100～200人規模で入れ、一切無料ですとすればインパクトはある。移住・定住でいろいろな世代に住宅補助を出すのは特徴的ではないので、子育て世代に絞り込めばヒットすることもあるのではないのでしょうか。</p> <p>具体論になりますが、前回のヒアリングで、放課後児童クラブは、達成するための</p>

	<p>目標を掲げているのに、「(目標を達成するには) 遊具が古い、傷んでいます。」というようなキャッチボールが多かった。今回は、策定から年数も経っているので、本筋を導き出せるようなヒアリングができればと思います。</p>
委員	<p>目標を掲げているのだから、できないと駄目でしょう。民間とは違いますが、成績シートのようなものでもあるので、意識をもって取り組んでいただきたいと思います。もし、志度駅前に駐車場を整備し、公共交通機関を利用できるようになれば便利になると思います。</p>
委員	<p>コミュニティバスは停まる所が限られていますが、朝と夕方の1～2時間、志度駅と工業団地を巡回してくれれば、利用者が増え、企業側も駐車場を潰して土地の有効活用ができるかもしれないし、交通費の総支給額より安ければ、市にバスの使用料を出してくれるかもしれない。個別にみんなが頑張るのではなく、政策課が司令塔となり周りを巻き込んではどうでしょうか。</p>
委員	<p>交通網が発達すれば、高齢者の免許証返納も増えると思います。香川県は交通事故数No.1ですが、打破するためには、今の施策のままで討論しても無理だと思います。先ほどの意見のように、未来に向かって1歩出る時期にきていると思います。</p>
委員	<p>コミュニティバスに毎朝乗車していますが、1時間に1本です。市民病院を經由していますが、病院で降りる人はほとんどいません。下りのJRは通勤にはほとんど使われていないと思います。使う仕組みを作ってあげると企業にもメリットは出ると思います。志度駅南のロータリーも駐車場にすれば、高松に勤務している人がもっと活用できると思います。</p>
委員	<p>東西の沿線に居住している方の人数を企業に調べてもらい、利用者が500人くらいるのであれば、志度駅と工業団地間をコミュニティバスでピストン運行して、自家用車の数を減らせば渋滞も少しは緩和されると思います。コミュニティバスが無理なら企業側が連携し、共同でバスを走らせてはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>今回の見直しは、検証をした上で、必要に応じた加筆修正がメインとなります。</p> <p>今の話は、公共交通と企業が対象ですが、企業メリットは住民メリットに繋がっていきます。公共交通であれば専門の有識者会議があり、所管は都市計画課。企業であれば商工観光課。どちらも同じ建設経済部で、ヒアリングには担当部長も入られるので、今のような新しい視点による、有識者会議の皆さんの部局内連携を進めるアイデアについて話し合うことは可能だと思います。もし、部局をまたいでアイデアがあれば、事前におっしゃっていただければ、ヒアリングに向けて調整できるかと思います。次回の会議で調査票の結果を見ながら、ご意見をいただければと思います。</p>
座長	<p>では、次回委員会とヒアリングの実施日程の確認をします。ヒアリングへの委員の出席は任意です。6月中旬頃には、資料2と3のできあがったものを郵送します。</p> <p><日程調整></p>
座長	<p>今回は6月27日です。ヒアリングは、今の意見をもとに7月11日前後を基準に調整してください。最後に、シンポジウムについて、事務局は説明をお願いします。</p>
事務局	<p>昨年度皆さまから、「総合戦略のアピールも兼ねて、みんなでまちづくりについて</p>

座長	<p>考える機会をつくることと、市民憲章のアピールも行うべき」、との意見を踏まえ、「1歩踏み出す人を5人つくる」ということを大きな目標として、一連の流れを持たせた地方創生イベントを開催することとしました。その第1弾がシンポジウムで、市外の30～40代の方で、子育てしながら起業したり、まちづくり活動をしている方々に、経験を踏まえたパネルディスカッションがメインとなります。第2弾は、シンポジウムのスピンオフとして、秋から冬にかけてワークショップを3回ほど行います。第一弾のシンポジウムは、8月5日の午後を予定しています。当日の流れは、市長挨拶の後、総合戦略と市民憲章の報告をし、パネルディスカッション、市長講評となります。委員の皆さんにもぜひお越しいただき、提言書案づくりに活用いただけたらと思いますので、次回の委員会でチラシをお渡しするつもりです。</p> <p>以上で、第1回目の有識者会議を終了します。</p>
----	--

< 閉 会 > (11:30)